



「郡上市 | 郡上八幡博覧館の福よせ雛」 撮影 | 星野 宏

ふくしまイスター+（プラス）の活躍

社会福祉協議会で地域づくり



岐阜県で働くふくしまイスター+（プラス）一期生の活躍を紹介。一人目は社会福祉学部卒の原奏恵さんです。在学中から関心を持っていた地元中津川市の社会福祉協議会へ就職し、地域福祉課に配属。現在は、生活の中での困り

ごとを、そこで暮らす方々で解決している地域づくりに取り組んでいます。地域の集まりに足を運び、住民の方と関係を築きながら、事業の説明や自分の役割を伝える情報発信をしているとのこと。卒業研究で共生社会をテーマに学び、実際に現場に出てみると、いかに自分が地域の事を知らなかったかに気付かされたと言われました。それでも、自分が発信した情報で喜んでくれる人がいる嬉しさを味わうことができ、やりがいを感じている様子です。大学時代、卒業生の取材で先輩の話から学んだ、挑戦する事、やってみる事の大切さを、今の仕事でもここがけているのだとか。

知識だけでなく、COC+で学んだ実践力も活かして働いている姿に、こちらも刺激をもらいました。最後に「今後は、職場の中だけでなく地域に関わる人みんなまで、もっともっと話し合い、共通の方向性を考えて、一緒に地域をつくっていただける関係にしていきたい。」と決意表明をもらいました。



～原奏恵さん～
岐阜県中津川市出身。2019年3月社会福祉学部卒。中津川市社会福祉協議会で生活支援コーディネーターに従事。

児童養護施設で子どもたちに向き合う



一期生二人目は社会福祉学部卒の松山詩歩さんです。2019年4月から地元郡上市の児童養護施設合掌苑へ児童指導員として就職。毎日、子どもたちと生活を共にしながら、地域の活動にも一緒に参加し、地域と関わって働いています。

仕事が思うようにいかず、日々悩み、反省をしながらも、子どもたちが成長していく姿に支えられ、やりがいを感じながら頑張っているようです。大学時代から児童福祉に関心を持ち、岐阜県内だけではなく、他県の施設も見学に行っていた松山さん。実際に現場に行くことで、施設の特徴や雰囲気がわかり、自分がどんな施設で働きたいかが明確になって、今の環境を選らべたのだとか。生まれ育った土地で、周りの職員さんたちと楽しそうに働く姿を見ることができました。「もっと、目の前の子ども一人ひとりのことを理解したうえで、その子に応じた対応ができるようになりたい」

とさらなる成長を目指しています。合掌苑では一緒に働く仲間を募集中とのこと。もし、関心がある方は見学に行き、現場を自分の目で見て雰囲気を感じてみましょう。ふくしまイスター+（プラス）の二人のインタビュー詳細は、ブログで公開しています。そちらも、ぜひご覧ください。

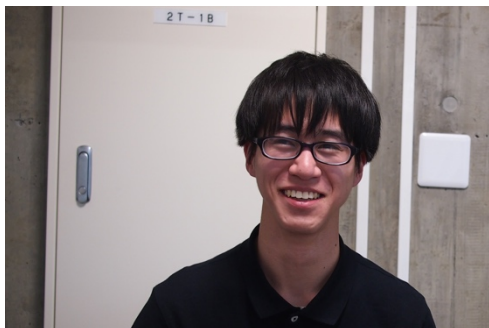


～松山詩歩さん～
岐阜県郡上市出身。2019年3月社会福祉学部卒。児童養護施設合掌苑で児童指導員に従事。



冬の学生たちの活動（オーダーメイドインターンシップ編）

下呂市役所で仕事も地域も体感



社会福祉学部3年生の荒井拓海さんが下呂市役所で、オーダーメイド型インターンシップに参加しました。行政分野で福祉の仕事を目指す荒井さんの希望を伺い、1週間みっちり福祉課で学ぶことに。下呂市の特徴や福祉課の仕事に

ついてお話を伺った後は、1日目から早速、先輩ソーシャルワーカーさんについて現場へ向かいます。5日間通して、相談者のご自宅やケース会議、連携先の社会資源など、様々な現場に同行させてもらい、実際に働くイメージが持てた様子。「大学の講義で学ぶ地域連携という言葉を実際に肌身で感じることができ、これが本来の『ふくし』の姿なんじゃないか」と学びを語りました。そして夜は、下呂市の地域おこし協力隊、鈴木亘さんのご自宅に民泊。古民家をボルダリングジムに改装した鈴木さん宅には地域の方々が集まり、その方達との関わりを通じて、福祉だけでなく、働く

ことについても多くを学び、これまでと考え方が大きく変わったようです。最終日に「このまま下呂市にいる方が自然」と口にした荒井さん。短い間ですが、公私ともに下呂市の魅力を味わったインターンシップになりました。



中津川市社会福祉協議会で地元を学ぶ



社会福祉学部3年生の神原美咲さんは中津川市社会福祉協議会で5日間のインターンをおこないました。大学の講義で社会福祉協議会に関心を持った神原さん。

今回は、実際の取り組みや仕事内容を学ぶために、複数の課や支所で幅広く業務を体験できるプログラムにさせていただきました。インターンでは、社会福祉協議会が運営する就労継続支援施設やデイサービス、ボランティア活動の見学や会議への参加など、職員さんと一緒に行動。過疎化や高齢化など、地元中津川市の現状課題に真摯に取り組む姿を間近で見れたことで、その熱量を肌で感じることができたようです。また、地区社協の取り組みから、地域の民生委員や住民の方とネットワークを築いていくことの

大切さを知り、「将来は、もっと福祉の勉強を進めて、住民のニーズを汲み取れる人になりたい」と、自分が目指す働く姿も見えました。インターンシップを通じて、社会福祉協議会で働く際にどんなことが必要になるのか、そもそも、社会人として働くために何をすればいいのかを考えることができ、充実した5日間になったとのこと。地元であり、ふくしまイスター+（プラス）を取得した先輩が働いている職場でもあるため、安心して参加し、たくさんの学びを得ることができました。

就職活動のすすめ！

「今」できることを考えよう

2021年卒の就職活動が解禁された3月1日。しかし今年も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、合同説明会や個別説明会など、就職関連のイベントが延期や中止になっています。日本福祉大学でも、学内説明会を中止しました。ただでさえ、不安が大きい就職活動の時期に、想定外の出来事に対して、余計に不安が増してしまうかもしれません。だからと言って、立ち止まるのではなく、自分にできることは何かを考えてみましょう。

筆記試験に向けた勉強や、応募書類の準備、自分の整理などは、今でもできます。また、企業や自治体の情報も合同説明会だけが収集の場所ではありません。今後、事態がどのように変わってもすぐに対応できるように、「今」、どんな準備をしておけるかを考え、行動することが大切です。先の見えない状況に対応し行動する力は、社会に出た際に大きな武器になります。今から身につけていきましょう。

岐阜県福祉人材総合支援センターの活用

岐阜県社会福祉協議会が運営する岐阜県福祉人材総合支援センターでは、岐阜県内の福祉・介護分野で就職を希望している方の相談を受け付けています。求職登録をすると、毎月発行される福祉のお仕事求人情報ダイジェスト版ももらうことができます。ここでしか得られない情報もあるので、ぜひ活用して就職活動を有利にしましょう。

